

## Where there is a will, there is a way.

## 意志の強さで道を開ける

市川市 福田恵子

## 学生就労相談との出会い

私は大学のキャリアセンターで週3日、学生の進路・就職支援の相談業務に携わっています。今の大学は3校目、通算20年になります。第一子出産後16年間働いていた会社を退職、子どもが5歳、3歳になり、子育てと両立させて働きたいと思っていました。そのとき知人から大学の就職課が相談員を探している、と「偶然のできごと」がきっかけでした。商社の人事で新卒採用や研修を9年間、出向した人材派遣会社で営業や人材開発を7年間、仕事の経験が認められ、女性の相談員も少ない時代で珍しさもあつたようです。

幸運な仕事のスタートも就職氷河期に入り、大学生の求人倍率は最低の0.99倍と労働環境は厳しく、求人も少なくなり、収入が得られれば多くは望まないと、学生たちは切実な思いで就職活動をしていました。卒業式当日に内定が出て、手を取り合って喜んだこともありました。心が折れて落ちこむ学生に私ができること

は、あきらめずに続けるよう支えるのが精一杯でした。一生懸命頑張っていた彼らの涙や笑顔は今も忘れられません。相談員としてもっと力をつけて、若者の自立支援に役に立ちたいと強く思いました。

## 産業カウンセラーとの出会い

何をしたらいいのか、私にできることを探して迷っていました。そのとき目にとまったのが「産業カウンセラー」で、偶然のできごとでした。案内を取りよせてみたものの、想像していた以上にハードな勉強だと感じました。仕事、子育て、家事と目まぐるしい生活、当時は通学制で都合がつかず、時間が過ぎていきました。

子どもたちが高校生になり、8年前、5歳を少し過ぎて、船橋の教室で産業カウンセラーの勉強をスタートしました。知り合いもなく、年齢的な不安もあり、とても緊張したことを覚えています。講座初日に実技指導者の先生方やクラスメートと顔合わせ、暖かな空気に包まれてホッとしました。ロールプレーの日は授業が

終わると反省会と称して、近くの喫茶店でいろいろな話をして元気をもらいました。勉強会を開いて試験勉強と一緒に頑張った仲間、先生方からもたくさん言葉を頂き、今も感謝の気持ちでいっぱいです。何歳になっても人との出会いは人生に彩をくれる、幸せな気持ちに包まれた時間でした。そして「傾聴」の難しさ。産業カウンセラーの学びはまだまだ先が長いことを痛感しました。

## 学生たちとの出会い

今年の大学生の求人倍率は1.78倍。堅調な景気と労働力不足から多数の求人があります。しかし、実際は複数内定をもらう学生と何十社受けても結果が出ない学生の二極化が起こっています。就職協定が名目になっており、経団連加盟企業は率先して順守していますが、罰則がないので年々学生の争奪戦は早くなっています。大学3年生の夏休みから始まるインターシップは就労体験を通して「働く」ことを考える機会になっていますが、反面企業が学生

